

愛道

あいどう



テーマ「ハーモニー」



新年のごあいさつ



信頼

社会福祉法人足羽福祉会

理事長 滝波博純

新年明けましておめでと
うございます。

昨年は何かとお世話にな
りありがとうございました。
今年もどうか同様に変わら
ぬご指導ご鞭撻べんたつをよろしく
お願い申し上げます。

昨年は何といつても新型

インフルエンザの流行が一
番の心配事でした。多くの
方々がご一緒している私た
ちの施設では、その感染予
防に万全を尽くすことが肝
要となります。皆さん方と
ご家族の方々、いつもお世
話になっている多くのボラ
ンティアの皆さん、地域の
皆さん、そして関係者各位、



米寿を心からお祝い致します

特に職員には、大変なご尽
力を頂戴ちやうだい致しました。まだ
先の事は予想できない様相
です。引き続きご理解ご協
力をお願い致します。

さて、いろいろ事の多い
中で新年を迎えましたが、
昨年この挨拶で、私たち
福祉従事者として、サービ
スの基本は「人」であり、お
一人お一人に合った、満足
していただける、そして安
心していただける保育、支援、
介護を提供していきたいと
お話し申し上げました。先
日のある講演で、感銘を受
け意を強くした話がありま
したのでご紹介致します。
その方は、三菱UFJリ
サーチ&コンサルティング
理事長の中谷巖なかつた いわお氏です。「信
頼ある日本社会の創造に向
けて」という表題で、こんな
話をされました。

済大国という隆々たる発展
を成し得たのも、その最も
基礎的な要素は「信頼」とい
う、人間性によるもので、こ
の「信頼」こそ日本人が誇れ
る重要な資産である。幕末

開国時、多くの西洋人が日
本にやって来た。そして日
本の社会を見聞して仰天し
た。日本の人たちはなんと
穏やかで温かで、他の人の
ものをくすねるといふ心配
がまったくない。安心、信頼
できる人間関係、社会を作
っている。このことについ
て多くの外国人が手記を書
いている。
また、日本の企業は何が
強かったのか、それは「現場力」
があるからだ。働いている従
業員の人たちが責任感をも
って欠陥品がでないよう熱
心に仕事をしている。悪いと
ころがあると自発的に協力
して直していく。皆が当事者
意識をもって対応する。一心
同体、一体感をもって社会を

つくってきたのである。
しかし、年々欧米化、さら
にグローバル化(世界的規模)
しており信頼社会が損なわ
れてはいないだろうか。も
う一度、人と人がお互いに
信頼できる社会を築き直さ
なければならぬ。そうす
れば、日本社会のユニーク
な強み(高度信頼社会)は維
持できるであろう。不況が
多少長引いても心配するこ
とはない。このようなことは、
社会福祉の仕事に密接に関
係していることである。福
祉の現場においても「お互
いに包み合う」ことができ
る福祉の中身をつくり上げ
ていくことが非常に大きな
分かれ目である。

以上のお話でした。
これからもより一層、人
のため、地域のため「心」を
持って信頼される福祉を進
めてまいります。どうぞよ
ろしくお願い致します。

平成21年度 ～足羽福祉会～

レクリエーション交流



西本さん(足羽ワークセンター)



高村さん(足羽利生苑)

司会進行の二人です

平成21年10月17日、総勢約200名が福井市東体育館で足羽福祉会レクリエーション交流を行いました。

新型インフルエンザの流行に伴い、感染予防のため利用者の方と職員だけの参加となりましたが、今回は「海」をテーマに、越前三兄弟(イカミちゃん、エビノスケ、カニタロウ)も応援にかけつけ、会場内は大にぎわいでした。その様子や内容をご覧ください。



レクリエーションの前に体をほぐしましょう。

準備運動



「越前三兄弟」登場！拍手のビッグウェーブ！

皆さん、こんにちは



園児からお年寄りまで、手をつないで楽しく踊りました。

車イスダンス



鳴子を両手に、みんなでヨサコイ「ワッショヨイ！」

お楽しみタイム

目次

2	新年のごあいさつ	
3	レクリエーション交流	
4	働き方を変えてみると	足羽東保育園
6	進路を考えるために	足羽学園
8	芸術のちから	足羽更生園
10	ひとつのものに向かって	足羽ワークセンター
12	厨房とび出し調理	愛全園
14	地域とのつながり	足羽利生苑
16	愛のささえ／「職場風土改革促進事業」の推進に向けて	



「表紙について」
写真は、足羽更生園の習字クラブで安達龍幸さんが書いた作品です。
今年は、寅年ですが、十二支すべてを書かれました。
習字クラブの講師の小林先生のアイデアでレイアウトし、より一層作品の魅力が増えています。
(足羽更生園 吉野)

働き方をかえてみると

〜子育て夫婦のハーモニー〜

「男性の育児」皆さんはどう考えますか？
今回は、二家族のご意見をお伝えします。

対談を行ったOさん
一家は、父、母、子ども（5歳・3歳・0歳）の5人家族です。お父様は自営業のかたわら、家事や育児もされており、お母様は看護師で、日々、仕事に励まれています。

育児と仕事の役割分担で、お2人での話し合いは？
母 特別に話し合うことはなかったのですが、主人は子育てに参加したいという意欲があり、私もそれぞれが得意分野を活かせばいいと思っていますから。

お母様は仕事と家庭の両立をどう考えますか？
母 両立ができていますか？
かどうかは…。でも仕事と家事のバランスはとるようにしています。私と主人の家事の割合は、主人が7で私が3です（笑）。

お父様も育児をされることで、お母様の仕事への気持ちはどうでしたか？

母 看護師は人と接する仕事なので、うれしいこと、楽しいこと、大変なことがいっぱいやりがいがあります。以前はパートでしたが、主人がしっかり子育てをしてくれているので、今は正社員にもなり、安心して集中して仕事ができています。ありがたいと思っています。

お父様が子育てで感じたこと、楽しかったこと、大変だったことは？

父 育児は楽しくてストレスにならないですね。子どもが昨日と違う言葉や動きをすると、毎日成長しているんだとうれしく感じます。子どもと同じ目線で話を聞くと、成長を感じます。大変なのは3人の子どもをお風呂に入れるときですかね。



泣いている弟を鈴であやす、お姉ちゃん

上の子はよく手伝ってくれ、弟にミルクもあげたり、

面倒もみてくれます。長女の意識がありますね。

男性の育児をどのように思いますか？

父 自分の父親は仕事一筋で、母親は大変そうだったのを、子どもながらに覚えていて、だから、自分と一緒に子育てをしようと。母親任せはよくないです。自分の子どもですし、お互いの意見を取り入れ子育てしたいですね。将来、子どもに『お父さんイヤ』と言われたくないですし…。

男性の育児が、子どもに及ぼす影響は？

母 母親は子どもがおなかの中にいる時からつながっていて、切っても切れない関係ですが、父親は出産してから父親になるので、子育てをしなかったらただの同居人です。子どもと接しないと、子どもは父親を見て泣き、



姉妹で電車ごっこ

父親は子どもが泣くから、どうかかわっていいかわからない。悪循環ですね。小さいうちから父親が子育てに参加し、子ども自身が父親と思うことで、親子とし成長していけるのだと。

父 結果や答えは大きくなってから…ですね。

お父様の『育児の休日』などありますか(笑)

父 休日は特にありませんが、子どもが保育園に行っている間は自分の時間です。

母 主人は子育てに積極的に本當にうれしいです。ときには主人が1人にな

れる時間を作れるように、私が3人の子ともと遊んでいます。

育児におけるご家族の調和は？

母 『調和』難しいですね。育児は正しくなくても、両親で試行錯誤しながら答えを見つけていくことが2人の調和で、よい育児につながるのでは。私の周りには、我慢してでも1人で子育てに一生懸命なお母さんがいますが、私は育児が大変だと、主人だけでなく、お爺ちゃんやお婆ちゃんにもすぐ『助けて』と求めます。母親はもつと育児に力を抜いたほうが、子どもはいろんな人とかかわり、かえって感性豊かな子どもに育つのではないでしょうか。

父親であることももっと楽しもう

宮本さん一家は、父、母、祖父、子ども（4歳・1歳）の5人家族です。お父様は、第一子誕生の際、6ヶ月間の育児休業を取得されました。そのときの宮本さんの思いをお聞きました。

育児休業取得のきっかけはなんでしたか？

妻が職場復帰をするに当たり、それが自然な流れでした。2人の子どもだから2人で育てたいという考えがお互いにありました。



運動会で
親子ふれあい

育児休業取得で、職場の反応はどうでしたか？

とても温かく受け入れていただき、環境的に恵

まれていました。育児休業の子育て中に感じたこと、楽しかったことはありますか？

子どもの日々の成長を目の当たりにでき毎日感動の連続でした。子どもと一対一で半年間じっくり向き合えたことは、何ものにも替え難い経験でした。育児に対しお母様からのうれしい言葉などは？

常に感謝してもらっていることが感じられました。「育児の休暇日」はありましたか？

ありました。職場の人もゴルフや飲み会に誘ってくれました。

育児休業後の仕事復帰はどうでしたか？

復帰直後に、大きな仕事があったり、復帰にあわせて仕事を多く残してくれていたりと大変ではありましたが、復帰を望まれていたこと（待たれていた）がありがたかったです。

男性の育児休業をどう思いますか？

共働きが多い福井県はもちろんのこと、どんな男性も育児休業を取るべきです。こんなに楽しく充実した日々を、母親だけに独占させるのはもったいない。社会全体の考え方が変わらないと難しい面もあります。男性が育児休業を取ることが当たり前、男女どちらが取得してもかまわないといった世の中になってほしいです。

貴重なお話をしていただき、ありがとうございます。ございました。

対談を通し、育児と仕事、お互いが助け合い協力してこそ『調和』が生まれ、そんな社会で、子どもは健やかに育っていくのだと感じました。

みんなの広場



<ミルク缶の缶転がし>
コロコロ、一緒にお散歩



<ペットボトルの棒落とし>
穴を見て、なかなか入らない…



<携帯ミルク缶のマラカス>
フリフリ♪どんな音？

**オリジナル
手作りおもちゃ編**
手作りのおもちゃには温もりと楽しさがいっぱい。遊び込むことで、赤ちゃんの心と体はすくすく発達していきます。身近な素材で簡単に作れます。

進路を考えるために

現在、高等部の生徒が7名在籍しています。その内4名が、この3月に卒業を控えた3年生です。

足羽学園では養護学校を卒業してからの進路を、本人・家族・学校・関係機関と相談し、それぞれの希望に沿った進路を見つけてられるように支援しています。

その一つとして、40日以上にも及ぶ夏休みを有意



義に過ごすために高等部の6名が、足羽福祉会の他施設で実習を行いました。

1人は足羽ワークセンターで実習を行い、5名の方は足羽更生園の日常活動の場である「羽生の郷」で実習を行いました。

見えていなかった姿

「羽生の郷」で実習をしたHさんの話です。

Hさんのふだんの行動や、集中力から考えると、実習参加は難しいかもしれないと予想していました。しかし「羽生の郷」でHさんの様子を見ていた足羽更生園（足羽学園と足羽更生園は同じ建物内に併設され、利用者の方のふだんの状況を知っている環境）の職員からの言葉は、

「Hさんがすごく頑張っていたよ。」

「Hさんてあんなに集中力があるんですね。」
「というお褒めの言葉ばかりでした。」

普段からHさんの状況をよく知る、足羽更生園

の職員だからこそ感じる
ことができた驚きと感心
だと思えます。またタイムリーに状況を聞いた足羽学園の職員も、Hさんを大いに褒めることができました。

それによりHさんは、さらに頑張り、その姿に刺激を受けた他の利用者の方も「私もHさんのように褒められたい。」と真剣に取り組みました。

施設実習の意義

卒業後は地元に戻ることを希望されている方、引き続き足羽福祉会を利用される方、と進路はさまざまですが、足羽学園を巣立ったときに、成人施設で実習経験をしておくことによって、戸惑いや混乱を軽減することができます。

そして成人の利用者の方々が一生懸命に働く姿を見ることによって、自分たちの将来の姿を想像することができるのではないのでしょうか。

また、他施設に移られることになっても、本人の作業中の様子や得意分野などの情報を提供することができそうです。

同じ法人内実習の強み

同じ法人内施設で実習をすることは、その利用者の方の情報を共有する



時間が過ぎることを忘れるほど作業に集中するHさん

ことで、実習中の改善点等も職員間ですぐに話し合い、さまざまなケースに対応（不安定な状態の対応・個性を理解した柔軟な対応）ができます。



足羽更生園 日中活動担当職員より

だれしも、新しい環境には不安や緊張、抵抗というものが付きまといます。特に障害がある方にとってはその影響は、はかり知れません。

しかし実習を経験す

ることで、同じ法人内で施設を移るときには、これまで使っていた道具、場所、顔見知りの職員の存在が、環境の変化を最小限に抑えてくれます。

高等部の方は足羽学園にいたときには、お兄さんお姉さんとしての存在ですが、成人の施設では立場が逆転し年下の存在となります。

大人の方と一緒に仕事をすることは、養護学校での作業（授業）とは違い、大人の世界を知り「仕事」としてとらえることができ、良い影響を与えているようです。実際に職員が驚くほどの変化が見られた利用者の方もいらっしゃいます。

足羽更生園

渡辺 浩基

足羽福祉会だから

できること…

それは利用者の方の生涯をサポートできる施設を持ち、全ての施設間で連携がとれること。

それは利用者の方に安心・満足していただくために選べるサービスがあること。

それは利用者の方の家族に安心して頼っていただけること。

これからも利用者の皆様、ご家族の皆様にも「足羽福祉会でよかった」と思っていただけることが総合福祉施設の役割です。



仕事を終えて、満面の笑み

みんなの広場

ちょっと笑える私の宗族編

「おばあさんの補聴器」

今年で84歳になる私のおばあは昨年、補聴器を新しくしました。

その理由が：

ある日、テレビを見ながら「おかき」を食べていたおばあが、大笑いしながら私を呼ぶのです。面白い番組でもやっているのかとおばあのところに行くと、

おばあの手ひらには粉々に砕かれた「おかき」によく似たプラスチックの破片が：

そうです、おばあは自分の補聴器を「おかき」と勘違いし噛み砕いてしまったのです。

おばあは「おかあちゃん（私の母親）に怒られる」と言いながらも、笑いすぎて動けませんでした。

すぐに補聴器のお店に行き、代わりのもので購入しました。

お店の人に「おばあちゃん、どうしてこんなに粉々になっちゃったの？」と聞かれていましたが、おばあは思い出して大笑いするばかり。理由を答えることができませんでした。

今は、おかきを食べるときに一粒ひとつぶ、おかきか補聴器か確かめながら口に運んでいます。

足羽学園職員

Aさん



「芸術のちから」

「私たちの作品展」

地域の方々と広く交流

を深めようと、平成20年

度から障害がある方への

理解を深めていただく広

報の一環として「足羽更

生園クラブ作品展」の名

称のもと、作品展会場と

なる社会資源への働きか

けを行なっています。

活動当初は、作品展の

会場探し、本格的な作品

展に向けてどうしたらよ

いか、作品の感性を伝え

るにはどうしたらよいか

などの苦労もありましたが、

今では地域の方と作品を

通じたふれあいが生まれ

ています。

現在では、4つの創作

クラブで、作品展に出品

することも意識しながら、

目標を持った取り組みを行っ

ています。

「書は人なり」

習字クラブ

人の書くスタイルはさ

まざまです。特に、知的障

害者の方の筆で表現する

感性は、見る方に強いイ

ンパクトを与えます。こ

れは、書くときに「迷い」

がないからでしょうか。

利用者の方は、自由奔放

に書き上げていきます。

習字クラブでは、書道

の先生を講師に招いて作

品づくりのアドバイス、

アイディアをいただいで

利用者の方の指導をお願

いしています。

筆の種類や平仮名・漢

字（行書・隸書）の種類を

利用者の方に応じて選ん

だり、工夫を凝らして潜

在的な書写の力を引き出

して魅力に変えていただ

いています。

利用者の方は、先生が

来られるのを毎回楽しみ

にしています。先生のご

指導を素直に受け止め大

変意欲的に練習に励んで

います。



小林先生(左端)と利用者の方たちの真剣な眼差し

講師の小林信恵先生より

利用者の方のあるがま

まの素朴な書を愛してお

り、ご本人だけのオンリー

ワンに感心しています。

習字クラブの利用者の

方は7名いますが、性格

の違い、行動の特徴、感情

の表し方の違いなどに示

される個性がそのまま書

に出ていると強く感じて

います。



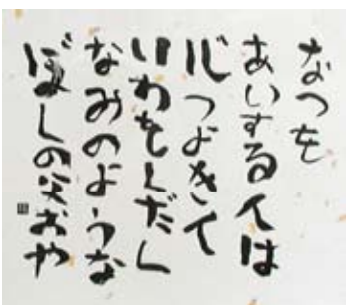
習字クラブの作品は、

全国的な競書展への参加

として、広島県熊野町の「ふ

れあい書道展」に出品し

て表彰も受けました。



敢闘賞受賞・安達龍幸さん

競書展への参加は初め

てでしたが、多くの人に

作品を見ていただきたく

自信を持って挑戦しました。

クラブ担当 岡崎慈樹

「コツコツ地道に」

ちぎり絵クラブ

みんなで協力しながら

ひとつの作品をつくり、

他の人たちに見てもらっ

たという目的を持ったことで、

作品に対する思いが強くなっ

たと思います。



散っている桜は、利用者の方のアイディアです

作品づくりの最初は、

小さくちぎられた色紙を黙々

と貼り続け、とても静か

です。しかし、作品が仕上

がるにつれ、「ここできあ

がった」「ここ私するで」

と楽しい会話がが増えてき

ます。

クラブ担当 久保佑美恵

「話題の作品にも挑戦」 折り紙クラブ

折り紙クラブの出展作品といえば、折りづる、花かごとといったものが多かったですが、ときには、アイデアを凝らして話題のキャラクターにも挑戦しています。



いろいろな表情があるよ♪

「これ、ポニョや」とみんな大騒ぎです。

クラブ担当 岡崎ゆかり

「似顔絵も得意だよ」 絵画クラブ

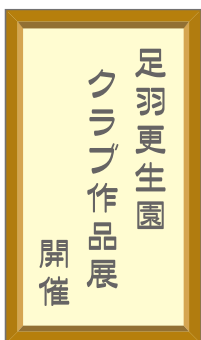
利用者の方は、思い思いの好きな絵を描いてくれます。時折、職員の似顔絵を描いて「〇〇さんの顔を描いたよ」と持ってきられることがあります。



ちよつとシヨックなときもありますが…(笑)
うれしいです。

クラブ担当 齋藤紀子

「小さな輪から 大きな輪へ」



足羽更生園では、展示ケースが設けてあり、常時作品を展示しています。利用者の方はもちろんのこと、ご家族・来園の方々にも鑑賞していただいています。身近なところから、取り組みを始め、一歩ずつ歩みながら、小さな輪を広げていきます。

利用者の方の素晴らしい作品を、もつと社会の人々に見てもらいたいという職員の思いが、さらに、大きな一歩を踏み出し、社会資源の活用へと取り組みの輪が広がっていきました。



福井県立図書館ロビーにて(平成21年8月開催)

「この展示会を」ご覧になった方の感想」

・デジタルメディアアーツに携わる者です。障害者のみなさんを今の僕では助けてあげられない。政治家にも変えられないことでも芸術は簡単に変えられると信じてください。 Aさん

・作品を見て「すごい、すごい」と感動しました。書はあなたらしさがとても表現されています。 Bさん

・私の長男も知的障害があり、家におりますが独り立ちできるよう、がんばる力を今日いただいた気がします。これから素晴らしい作品を楽しみにしています。 Cさん

障害があると外に出て社会参加する機会が少なくなるといわれています。しかし、社会の人たちにより、利用者の方の持っている才能や感性・作品への思いを伝えることができます。

皆様からいただいた声は、利用者の方にとって励みとなり、社会に参加する自信につながります。

みんなの広場

「E」知識編 キャップの価値？

今、注目されているペットボトルのキャップのお話です。

- ・キャップは800個で20円になります。
- ・20円でポリオワクチンが一人分買えます。
- ・キャップ800個で一人の子供の命が救えます。

- ・ゴミとして焼却するとキャップ800個だと約6.3kgの二酸化炭素が発生します。
- 6.3kgといえば、1.5Lのペットボトルで約4本分です。

実際持ってみるとその重さを実感できると思います。

小さな心がけで命と環境を救うことができます。

ひとつのものに向かって

裁断の工程



☆一つの作業を二人で協力しながらできるのでやりやすいです。役割の分担があるので作業に集中して取り組みます。

Tさん

利用者の方の声

折りの工程



☆最初のころは自分のやることさえ分からなかったです。どこにきれいに並べたら良いか分かりませんでした。型があることでズレも少なくすることができました。

Sさん

現在、第2事業所足羽

サポートセンターで受注・加工している作業の中には、園芸用品の組み立てやCDケースの検品などのほかに、大人数によって工程をすすめているものがあります。今回はその作業に携わる利用者の方々の作業の様子や、軌道に乗るまでに工夫してきたことを紹介します。

戸惑いからのスタート

足羽サポートセンターで新しく受注した今回の作業は、森林での鳥獣被害から木を守るという防護ネットの裁断や結束が主な内容です。最初に資材を目にした全員が、あまりの大きさにビックリして「どうやって作業を

進めればいいのか？こんな大きな資材の加工、終わることができないのだろうか？」と不安になり、取り掛かりにも右往左往していました。

作業をするにも、資材の設置や、利用者の方の人員配置をどうするのか職員も戸惑うばかりでした。

試行錯誤を繰り返して

この作業には裁断、折り、結束と大まかに3つの工程があります。資材を回転させるにはどのように作業台を設置するか、台をどの方向に向けるか、また、利用者の方が加工しやすい位置はどこになるのか、どうしたら上手に結束ができるかなど、試行錯誤を繰り返して最適な場所を探し作業環境を整えていきました。

大きく改善が必要だったのは、折りから結束の工程でした。いくらきれいに裁断し、結束してもズレが生じてきてしま

ます。そこでの工夫は、ズレが生じないようにあらかじめ資材に合わせた型を用意しておいて、その中で作業をしていただくことでした。これによりズレが生じても見えやすく、すぐに修正ができるようになりました。

利用者の方には数多くの工程をしていただくのではなく、一つの工程に集中していただくことでスムーズに作業を進めていただけるようになりました。半年が過ぎた現在では、利用者の方、職員も整えられた環境で、協力して取り組んでいます。



型があると分かりやすい☆

結束の工程



☆最初は体力がなく結束作業をするのも大変でしたが、職員が作った補助の道具を使用して簡単にできるようになりました。今では体力もつき、自信ができました。前の工程の人が丁寧に折りたたんでくれるので、作業もしやすく、補助の道具を使用することも減りました。

Nさん

職員の声

当初は大きな資材が入ってきたのを見て、「利用者の方が安全に作業を進めるためにはどうしたら良いか？」と戸惑い、出荷した製品に対しては先方の業者から何度も改善の指示がありました。「これはイカン」と思いますがさまざまな改良を加え、利用者の方も「たくさん作ろう」「丁寧に作らなアカン」と作業を通して応えて下さいました。そのことが大きなバネとなって「もっと分かりやすく、もっとスムーズに」と工程を進めていくようになりました。本当に利用者の方の取り組む姿勢は素晴らしい、一つのチームとして作業ができていますと感じています。

作業担当 山内洋一



みんなの広場

愛道を読んで編

今回初めて「愛道」を読ませていただきました。さまざまな施設の取り組みを知り、実際にふれることがなくても関心が高まりました。今は休日を中心に利用をさせていただきますが、ただいておりますが、日中の活動にも参加していきたいと考えています。

記念の1000号ということもあり「愛道」の歴史を知ることができました。大変長い歴史があり、その歩みも分かりやすく書かれていたのでさらに深く読みたいという気持ちになりました。次の発行が楽しみです。利用者の方のご家族より

厨房とび出し調理

利用者の方11人が見守るなか

ミニキッチンで昼食作る

平成21年9月26日、愛全園2階のミニキッチンで水野調理員が昼食のおかずを作りました。

お部屋のそばまで調理員が出向くところが新しい取り組みです。下ごしらえから盛り付けまで、すべてを利用者の

方14人分の調理でした。



時折うなずきながら調理を見つめる小林ツヤさん

利用者の方々は興味がない様子でした。この日は「サバのおろし煮」と「ジャガイモのカレー煮」の2品です。2階西側にお部屋のあ



調理器具が並ぶと、すぐにご利用の方が現れます

まず、材料を刻む音がリズム良く響き、サバを揚げるパチパチパチッという小気味良い音が続きます。同時に、油のにおいが立ち込めました。グツグツ煮込む音や鍋から立ち上る湯気とともに、や

今日の調理は？ 水野さんに聞く

今、出来たばかりのものを目の前でおいしそうに食べていただけるのは、本当に充実感があります。

今日のメニューで言えば、カレーが苦手な方でも、意外にも「食べる」と言ってくださる方がいて、うれしいですね。その場で作ったほうが好き嫌いせず食べていただけるように感じます。

ただ、今日は開始時間が予定より少し遅れてしまって…内心はドキドキでした。この緊張感もミニキッチンで調理するからこそその感覚でしょうか。



皮むきに集中

がて2階全体がカレーのにおいで包まれました。「ふだん落ち着かず立ったり座ったりされていても、腰を据えて調理を見学されていました」と、黒田介護員は話してくれました。



サバを揚げるころには大にぎわい！！

4人の利用者の方が味見され「いい味です」と言ってくれました。ジャガイモのカレー煮を味見され



味見する竹下幸子さんは真剣そのもの

利用者の方に聞きました

佐々木勝義さん

(料理を)やるのは嫌やけど、見ているのは楽しい。またお願いします。

山口蓮枝さん

においする。鼻通るわ。作ったことはねえけど昔は家のもんが…

(思い出話へとつづく)

竹下幸子さん

いいにおいしてたし、

た方の中には「カレーか？

本当は私、辛いものは得意じゃないけど…もう少し食べな、わからん」と、

味見でおかわりをされる方もいたほどです。

朝食が始まると、あちらこちらのテーブルで、

利用者の方から声が掛かりました。「ありがとう」と手を合わせたり「おいしかったわ」と笑ってくれたり、調理員をねぎら

う言葉でした。

愛全園にミニキッチン

は4ヶ所あります。ここでの調理は、昨年6月からの取り組みです。それぞれのミニキッチンで月1回からスタートしました。10月からは月3回に増やしています。

食べることを単なる栄養摂取と考えず、人生の大きな楽しみの一つとして、生きている実感をかち合おうと、愛全園が一丸となり進めている取り組みです。

年齢を重ねれば重ねるほど、食は細くなりがちです。しかし、ミニキッチンで調理のある日には、利用者の方が摂る食事の量が、ふだんに比べて多いという結果が出ています。

おいしいかったわあ。(作る人が)大変そうやけど。

「いただきます」と笑顔の安野いさをさん



「いただきます」と笑顔の安野いさをさん



みんなの広場

おばあちゃんのちえぶくら編

きれいに瓶を洗う方法

今回紹介するのは、愛全園デイサービスセンターを利用する2人の方から聞いたものです。

一升瓶など容器を洗う時に、水と一緒に細かく砕いた卵の殻を入れて振ると、きれいに洗えるという知恵です。

早速、実際に確かめてみることにしました。方法は次のとおりです。

まず、黒の絵の具を入れたペットボトルを2本用意します。1本は水だけで振って洗い、もう1本は殻と水を入れてから振って洗います。

結果は写真のとおりです。



洗う前



水だけ



卵殻入り

水だけでも、ある程度の汚れは落ちました。ですが、殻を入れた方は底の汚れもピカピカになっていました。

実践／本田達郎



地域とのつながり

デイホームとの交流を通して



ゲートボールで楽しく交流「この人昔からうまいやざ」

足羽利生苑デイサービスセンターでは地域交流の一環として、酒生地区にお住まいで、自治会型デイホーム（以下デイホーム）に参加されている方々を年に2、3回施設に招待しています。

さて、どのような目的で活動をしているのでしょうか？デイサービス職員の南部さんに早速取材開始！

活動の目的とは？

デイサービスとはどんなところか、使い始めるまで知られていないのが現状なんです。ですから、地域の方に足羽利生苑デイサービスではどのような活動をしているのかを知っていただくことが目的です。



デイサービスとデイホームのちがい

	デイサービス	自治会型 デイホーム
運営主体	足羽福祉会 足羽利生苑	福井市社会福祉協議会
活動場所	足羽利生苑 デイサービスセンター	各地区の公民館や集会所など
活動内容	○リフトバスで送迎し、入浴・食事・レクリエーション・機能訓練の提供 ○日常生活のお世話など	専任の職員や地域の協力ボランティアによる、レクリエーションの提供
目的	○日々の生活の充実（認知症予防など） ○身体機能の維持など	地域の方が地域の中で健康に過ごしていただけるよう、介護予防の一環として健康づくりを行う
利用者	要支援・要介護認定を受けた在宅の高齢者の方	各地域にお住まいの高齢者の方

またデイサービスの利用者の方にとっても、地域の方と交流を持つ良い機会づくりになればと思います。

どんな活動をしていますか？

例えば手芸の好きな方には、押し花のしおり作りや簡単なティッシュケース作りを。体を動かすことが好きな方にはゲートボールなどの軽運動をさせていただいています。お互い笑

顔で協力しながら、作業されたり風船バレーをしたりと、午後のひとときを自由に過ごされています。顔なじみの人と一緒に活動することで「久しぶりに会うけど元気やったかの」と会話もはずんでいました。



力作のティッシュケース



交流活動の結果は？

この活動を通し、地域の方に「^{とがの}梅野にこんなきれいな(新しい)ところがあったんか!」とデイサービスの存在を知っていただけでした。ある方が「うちには、外出をほとんどしないばあちゃんがいるんや。こんな所へ来てだれかと話ができるといいの」と話され、ご利用の手続きをされました。

「近所さんともなかなか顔を合わさって、話できて楽しかったわ」と話される人もいました。

活動を通じて感じること

世間一般の方が持つ高齢者福祉施設のイメージは「体の不自由な人や、認知症の人が行く所」と、マイナスな面が多いのが現状です。そうではなく、「心身ともに健康でいられるよう、顔なじみの人と集い楽しく過ごせる所」というプラスイメージに変えていけるよう、今後もさまざまな交流活動を続けたいと考えています。そしてだれもが気軽に立ち寄れるような、地域に根差したデイサービスをつくっていきたいですね。



運営委員の方にも取材をして、感想をいただきました。

自治会型デイホーム事業・運営委員の方の感想

交流参加者の方から「知人に励ましの言葉をかけることができ良かった」という言葉を聞きました。近くに住んでいながら会う機会が少ない方と触れ合えるのも、この活動の良いところですね。また手作りの作品は、毎回皆さん喜ばれています。

昔よりも高齢者福祉施設への抵抗は少なくなり、足羽利生苑も身近な施設になってきています。良い印象で、だれもが気軽に利用できるような施設づくりを期待しています。

今回の取材で、地域と施設が相談しながら交流する機会を持ち、共に生きることの大切さを再確認しました。今後も高齢者の方

みんなの広場

簡単おやつレシピ 編

福井県では水ようかんを冬に食べることが定番ですね。今回は水ようかんを簡単に作れるレシピを紹介します★

が心身ともに健康で、たとえ介護が必要な状態になっても地域の中で生きがいを持って生活できるように支援させていただいた理念の一部にあるように『地域に開かれた、地域に信頼される福祉』を目指します。



【材料】(10人分)

- ・寒天……………1本
- ・水……………800cc
- ・黒砂糖……………200g
- ・こしあん……………250g
- ・白砂糖・塩……………少々

【作り方】

- 1 寒天を水につけて、ふやかします。…①
- 2 ①を細かくちぎり、



- 3 ②を細かいザルで一度こしてから再び鍋に入れ、こしあんと黒砂糖を入れて火にかけて、完全に溶けるまで混ぜます。
- 4 お好みで白砂糖や塩を入れ、味を調整します。
- 5 火を止め、混ぜながら40℃くらいまで冷やします。…③
- 6 ③を水をくぐらせたバットに流しおたまやスプーンで泡を取ります。
- 7 冷蔵庫に入れてラップをし、40〜50分冷やして出来上がりです。